

事後評価結果（平成18年度）

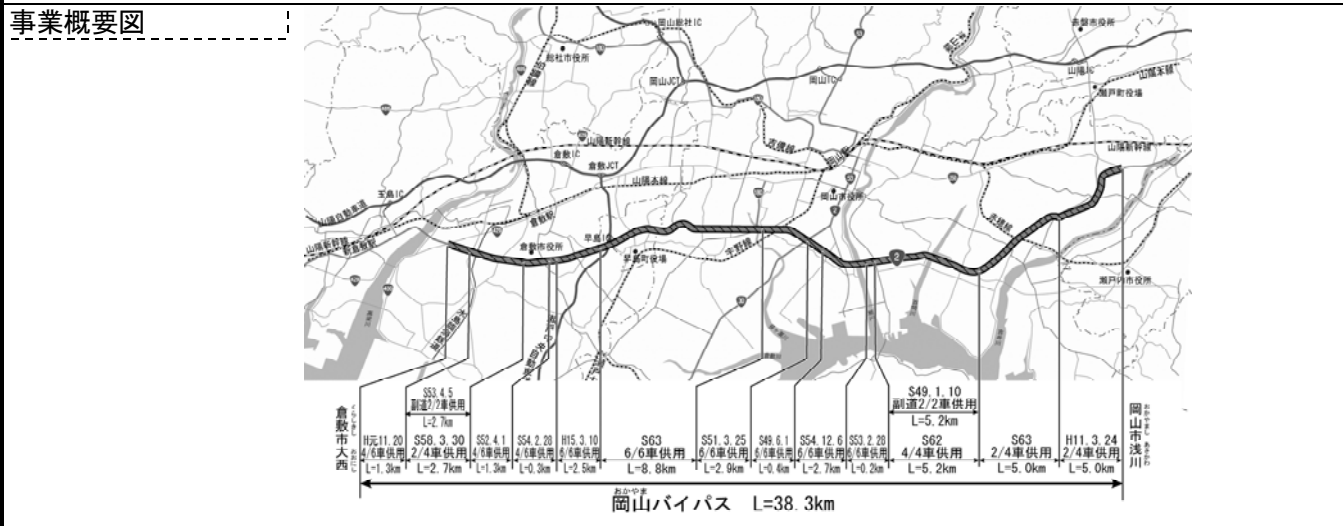
担当課：中国地方整備局道路計画課

担当課長名：吉岡 大藏

事業名	一般国道2号 岡山バイパス <small>おかやま</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局	
起終点	自：岡山県岡山市浅川 <small>おかやま おかやま あさかわ</small> 至：岡山県倉敷市大西 <small>おかやま くらしき おおにし</small>	延長	38.3 km			

事業概要
 一般国道2号は、大阪市を起点として瀬戸内海沿岸の主要都市を経由し北九州市に至る延長約690kmの主要幹線道路である。岡山バイパスは、岡山市浅川～倉敷市大西に至る延長38.3kmの全国でも有数の大規模バイパスである。

事業の目的・必要性
 一般国道2号岡山バイパスは、岡山・倉敷市街における交通混雑の緩和及び交通安全の確保、都市間交通の円滑化による地域産業の発展や拡大を目的として計画された道路である。



事業の効果等	事業期間	事業化年度：S38年度 都市計画決定：S41年度	用地着手：S41年度 工事着手：S43年度	供用年：(当初) — / — (暫定/完成) (実績) S45年度 / —	変動：— 倍
	事業費	計画時 (名目値) — / — 億円 暫定/完成 (実質値) — / — 億円	実績 (名目値) — / — 億円 暫定/完成 (実質値) 918 / — 億円		変動：— 倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成) — / — 台/日	実績 (暫定/完成) 101,124 / — 台/日		変動：— %
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	29.4 km/h → 46.9 km/h (供用前年次) S43年度 (供用後年次) H18年度	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	— → — 件/億台キロ (供用直前年次) 年度 (供用後年次) 年度	
費用対効果分析結果 (当初)	B/C：—	総費用：— 億円 事業費：— 億円 維持管理費：— 億円	総便益：— 億円 走行時間短縮便益：— 億円 走行経費減少便益：— 億円 交通事故減少便益：— 億円	基準年：— 年	
	B/C：19.5	総費用：2,953億円 事業費：2,322億円 維持管理費：631億円	総便益：57,560億円 走行時間短縮便益：54,662億円 走行経費減少便益：2,403億円 交通事故減少便益：495億円	基準年：H18年	
事業遅延によるコスト増		費用増加額：— 億円	便益減少額：— 億円		
事業遅延の理由 特になし					

事業の効果等	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●円滑なモビリティの確保・・・渋滞損失時間の削減、現道の旅行速度改善、バス路線の利便性向上が図られている。 ●物流効率化の支援・・・岡山県総合物流センターへのアクセス道路として寄与。 ●国土・地域ネットワークの構築・・・日常活動圏中心都市へのアクセス性の向上が図られている。 ●個性ある地域の形成・・・倉敷美観地区等、著名な観光地へのアクセス性向上が図られている。 ●安全で安心できる暮らしの確保・・・第3次医療施設（岡山赤十字病院）へのアクセス性向上が図られている。 ●災害への備え・・・第一次緊急輸送道路に位置付け（岡山県地域防災計画）。 ●地球環境の保全/生活環境の改善・保全・・・環境（大気質）の改善が図られている。 <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目 岡山バイパス供用により、周辺環境における大気質の改善が図られた。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S63.3 山陽自動車道 倉敷JCT～福山東IC間 供用 ・S63.3 山陽自動車道 倉敷JCT～早島IC間 供用 ・S63.4 瀬戸大橋(本州四国連絡橋, 児島・坂出ルート) 供用 ・H3.3 山陽自動車道 岡山JCT～倉敷JCT間 供用 ・H5.3 山陽自動車道 岡山IC～岡山JCT間 供用 ・H5.12 山陽自動車道 備前IC～岡山IC間 供用 ・H17.3 市町村合併（岡山市、御津町、灘崎町） ・H17.8 市町村合併（倉敷市、船穂町、真備町）
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>現時点で期待された事業効果が発現されていることから、今後の評価の必要性はない。なお、バイパスの交通量の変化及び利用状況を踏まえ、4車線化に向けて検討を行いたい。</p> <p>岡山バイパス市内部分においては、沿道地域の人口増加等に伴い、交通量は年々増大し、平面交差点部分において交通渋滞が発生している。これらの区間においては、平成15年度に「岡山市内立体事業」として新規事業化を行い対策を実施しているところである。この対策の完了により、岡山バイパス市内部分の交通渋滞は緩和されるものと思われる。</p> <p>よって、岡山バイパスとしては改善措置の必要性はない。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>特になし</p>
特記事項	<p>特記事項</p> <p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。